

温泉の成分・禁忌症・適応症及び入浴上の注意 (シーパ・MAKOTO大浴場)

成 分				禁忌症・適応症及び入浴上の注意
1 源泉名 マコト温泉 第1号源泉 松山市北条1180番地				1 禁忌症 急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期) 2 適応症 神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、性生殖器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病 3 浴用上の注意事項 ア 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当たり1回程度とすること。 その後は1日当たり2回ないし3回までとすること。 イ 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を相当とすること。 ウ 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり(湯さわり又は浴湯反応)が現れることがある。「湯あたり」の間は入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。 エ 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。 (ア) 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。 (イ) 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。 (ウ) 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない。(湯ただれを起しやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい。) (エ) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。 (オ) 次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とする。 ・高度の動脈硬化症 ・高血圧症 ・心臓病 (カ) 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。 (キ) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。 (ク) 飲酒しての入浴は特に注意する。
2 泉質 ナトリウム-塩化物強塩冷鉱泉(高張性・中性・冷鉱泉)				
3 泉温 源泉 22.5℃(気温26.0℃) 使用位置 41.0℃				
4 温泉の成分 (1) pH値 7.4 (2) ラドン含有量 7.19×10^{-10} キュリー /kg(1.98 マツヘ M・E /kg)				
(3) 試料1kg中の成分及び含量 イ 陽イオン				
成分	ミリグラム(mg)	ミリバール(mval)	ミリバール%(mval%)	
ナトリウムイオン	7034	306.0	73.10	
カリウムイオンイオン	111.9	2.86	0.68	
アンモニウムイオン	0.3	0.02	0.00	
マグネシウムイオン	789.2	64.94	15.51	
カルシウムイオン	894.9	44.66	10.67	
アルミニウムイオン	<0.05	—	—	
鉄(II)イオン	0.9	0.03	0.01	
マンガンイオン	3.1	0.11	0.03	
ロ 陰イオン				
成分	ミリグラム(mg)	ミリバール(mval)	ミリバール%(mval%)	
フッ素イオン	0.7	0.04	0.01	
塩素イオン	13070	368.7	90.72	
臭素イオン	45.1	0.56	0.14	
ヨウ素イオン	<0.1	—	—	
硫化水素イオン	<0.1	—	—	
硫酸イオン	1700	35.40	8.71	
炭酸水素イオン	103.7	1.70	0.42	
炭酸イオン	<0.1	—	—	
ハ 遊離成分				
非解離成分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)		
メタケイ酸	25.1	0.32		
メタホウ酸	15.2	0.35		
メタ亜ヒ酸	<0.01	—		
非解離成分 計	40.3	0.67		
溶存ガス成分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)		
遊離二酸化炭素(CO ₂)	4.8	0.11		
遊離硫化水素	<0.1	—		
溶存ガス成分 計	4.8	0.11		
ニ 溶存物質(ガス性のものをのぞく) 23.79/g/kg				
ホ 成分総計 23.80/g/kg				
ヘ その他微量成分 mg				
総水銀	0.0005 未満			
銅イオン	0.05 未満			
鉛イオン	0.05 未満			
5 温泉の分析年月日 平成16年10月13日				
6 登録分析機関の名称及び登録番号 財団法人 中央温泉研究所 登録番号 14 健地衛 第1号				
4 禁忌症及び適応症決定年月日 平成17年6月6日				

松山市

